

7 その他全般的事項

{

 保健医療学研究科 保健医療学専攻
 看護学研究科 看護学専攻

}

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況 ※関係規程（別紙1）
 大学評価委員会
 研究科委員会

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）
 両研究科委員会を適宜開催している。

c 委員会の審議事項等
 研究者倫理の在り方、TAの役割について協議を行った。

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 実施内容
- ・ 研究者倫理の在り方
- ・ TAの役割
- ・ 授業参観の実施

b 実施方法
 研究科委員会での議論のほか、公開研究会を実施する。
 また、大学院の一部の授業を公開し、教職員が相互に方法や技法を参観している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）
 全学の公開研究会は年2回開催したほか、7月にも実施予定である。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
 FD活動を通じて、大学院生に対する本学独自の研究倫理教育の実施やTAを通じてのキャリア形成の必要性を認識し、改めて教職員への研究会の実施検討を行っている。
 また、学部を含めた全学のFD研究会においても単に医療技術のみならず人を育てることえお念頭に
 おいた教育とすべきであることを再認識し、授業及び相談など学生支援にあたっている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期
 大学院においては、少人数であることから、アンケートは実施せず、都度リアクションペーパー等で確認し、見直しを図ることとしている。

b 教員や学生への公開状況、方法等
 個々の事例をどのように周知するかは検討中である。

- (注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
(別紙2)

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

認証評価受審に併せて平成27年度に公表する。

b 公表方法

印刷物を学内外に配布および、ホームページにも掲載予定

③ 認証評価を受ける計画

平成27年度に受審

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

(平成26 年 10月 31日)

大学院（修士課程）全体について

本大学院では、保健医療学研究科及び、看護学研究科が開設2年目を迎え、設置申請時の計画どおり、順調に進行している。

各研究科における取組みは以下のとおり。

保健医療研究科

保健医療研究科は昨年4月にスタートし、その設置の趣旨で示した①高度な医療専門職業人の養成、②先駆的な研究に取り組む人材の養成、③地域社会に貢献できる人材の養成を目指して、教育・研究を精力的に進めている。

初年度に入学した鍼灸学分野4名、柔道整復学分野4名の院生が在籍し、昨年度は教育課程に沿った授業を行ってきた。特に大学院教育での主要な授業科目である特別研究については、各自の研究テーマの進捗状況の把握と適切で質の高い研究を遂行するために1年次に研究計画発表会を開催し、指導教員以外の関連教員からもアドバイスを受けるマルチガイダンス的な会を実施した。そして、そこでの意見を参考に研究計画書を作成させ、それに基づいて研究に取り組むよう指導している現状にある。今後は、中間発表会を開催し、研究の内容修正も含めてより質の高い研究が実施できるように指導し、最終論文報告会へと繋げていく予定である。加えて、研究が更に円滑に実施できるように研究機器の整備等の研究環境の充実を図るよう努めている。

また、本年4月に、鍼灸学分野4名、柔道整復学分野3名が入学し、修士論文作成スケジュールに従い、研究計画の検討、論文調査等を鋭意進めている。

看護学研究科

看護学研究科では、開設時に懸案となっていた人員補充に関して、慢性看護学で1名の専任教員を4月から補充することができた。臨床経験豊富な専門看護師の資格を持った教員である。本領域に限らず大学院の教員資質を備えた人材不足の折、貴重な人材を得たことで教育をさらに充実させることができると確信する。

看護学研究科は、開設2年目を迎え4名の院生が在籍している。そのうち2名が2年目となり、現在修士論文のための研究に果敢に取り組んでいる。研究内容も実践の科学である看護のエビデンスをより客観的に求める内容である。また、今年度入学した2名はそれぞれ看護情報学または看護管理学を専攻している。入学して間もないが、それぞれの分野の研究を深めるべく授業に取り組み始めた。

看護情報学も看護管理学も日本国内では、限られた大学のみで開設されていることもあり、専攻している学生が他の大学院の学生と学問的交流ができるようディスカッションの場を設定したりしている。

大学院の使命である研究により専門分野の知識開発に寄与できる人材育成のため、今年度は特に修士論文のための研究に教員が総力を挙げて取り組んでいる。